



今号の特集

小児アレルギーのおはなし

2023年
2月



会計待ち時間「待たずにラクへだ」サービスについて

令和2年6月25日から開始

かんたん手続き ・ 外来当日から使える ・ ご利用料無料

診察後、お会計を待たずにお帰りになれるサービスです。

(ご入院の場合は原則 ご入院前のご登録が必要となります)

- サービスのご利用には、『診察券番号』・『クレジットカード情報』等を事前登録いただきます。(登録料・利用料ともに無料です)
- 当日のお会計につきましては、ご登録されたクレジットカードから後日決済されます。
- 領収書については決済後、院内の専用発行機にて発行可能となります。

一部ご利用いただけないクレジットカードがございます。

発行 〒220-8521 横浜市西区みなとみらい3-7-3
一般財団法人 神奈川県警友会 けいゆう病院
TEL045-221-8181 (代表) URL <http://www.keiyu-hospital.com/>



小児アレルギーの傾向

原因となる食べ物を食べて主に2時間以内に皮膚や粘膜、消化器、呼吸器などに症状が現れるものを即時型食物アレルギーといい、特に0〜1歳児の発症率が非常に高い傾向にあります。

アレルギーの原因となる食べ物は、0歳児では鶏卵が最も多く、牛乳、小麦の3つで全体の95%を占めています。

食生活の幅が広がる幼児期以降では、魚卵や木の実類、ピーナッツ、果物、そば、甲殻類などのアレルギーも報告されており、原因食物の種類や症状は多岐にわたります。

最近ではくすみやカシニューナッツなどの木の実類によるアレルギーの増加が目立ち、アナフィラキシーなど重い症状を起こすリスクが高いので注意が必要です。

症状が出て食物アレルギーではないかと気になるときは、早めに専門の医療機関を受診しましょう。

小児アレルギーの診断と治療

医療機関を受診すると、問診や必要な検査などをして食物アレルギーかどうかを調べます。くわしい問診ののち、疑わしいアレルギーに関して血液中の抗体の量の測定や、皮膚の反応を調べる検査、疑わしい食物を実際に食べて症状の有無を確認する試験（食物経口負荷試験）などを行います。

食物アレルギーと診断されたら、症状が出る原因となる食物を除去することになります。原因食物であっても、食べて症状が出ない量までは食することが可能です。

小児は成長とともに食べられる量が増えてくるので、定期的に食物経口負荷試験を受けて、食べられる量を広げていくことが大切です。

けいゆう病院では、必要時に最適な検査を行うなどお子さんの状態をしっかり見極めながら、アレルギーの改善に取り組んでいます。

小児科 部長
小児アレルギーセンター長

津村 由紀